

113 學年度第一學期 Eurasia 基金會(from Asia)國際講座
第七期「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(7)
講題：以「多民族日本」思考亞洲共同體的可能性

南誠(梁雪江) 教授
(2024. 10. 31)

要旨

講演者は、戦後に中国残留孤児の子孫で、中国の黒龍江省で生まれ、中学時代に日本に戻った方です。歴史社会学や国際社会学を専門とし、特に「中国帰国者」の研究に力を入れています。南誠教授は、本講座の目的は、アジア共同體の構築が提唱された後、なぜ今なお実現が難しいのかを考察しながら、多くの日本人の歴史形成や現状、そして越境交流圏の構築などを概観し、アジア共同體の可能性を探ることだと述べています。

1. アジア共同體の構築を阻む要因 — 歴史認識(記憶)

1997年の金融危機を契機に、アジアで欧州連合(EU)やそれに類似した金融政策や通貨の導入についての議論が始まり、「アジア共同體」を共に築こうという話題が広まりました。しかし、アジア共同體の構築には政治経済など多くの課題が存在します。講演者はその中で「歴史認識」という要素に注目しています。

中日両国を例にとると、NPOによる日本の世論調査では、両国の国民が互いに対する印象は良くないとされています。例えば、日本人が中国に対して持つ悪い印象の上位5項目は、(1)中国政府の行為が国際ルールに反する、(2)資源、エネルギー、食料に対する態度が自己中心的である、(3)第二次世界大戦の歴史問題で日本を非難する、(4)尖閣諸島問題での対立、(5)中国メディアの反日報道が多い、といった内容です。

一方で、中国人が日本に対して持つ悪い印象の上位5項目は、(1)尖閣諸島を国有化して中日紛争を引き起こす、(2)侵略の歴史に対して誠実な謝罪や反省がない、(3)日本が他国と連携し軍事、経済、イデオロギー面で中国を包囲しようとしている、(4)日本メディアが中国の脅威を宣伝する、(5)一部政治家の不適切な言動、といった内容です。

1997年以降、「アジア共同體」を構築しようという声は絶えませんでした。が、上述の世論調査からわかるように、中日両国では歴史観の違いが顕著で、政府間だけでなく民間でも歴史に対する見解が異なることが大きな問題

点となっています。2012年の尖閣諸島の領有権問題を巡る対立は、両国関係を底まで引き下げました。

戦後、中国政府は「軍民二元論」を政策に採り、「日本の軍国主義は有罪、日本国民は無罪」という立場を取りました。しかし、戦後の民間における歴史認識は、被害者と加害者、忘却と記憶、美化と反省、憎悪と友好の歪んだ心理の間で揺れ動いてきました。過去を総括し、現実に向き合うことができこそ、未来への構想が可能となります。

2. 多民族日本における帰国者の影響力

多民族日本には、外国から日本に移住してきた外国人や、戦後日本に帰国した日本人が含まれます。戦後日本の政治経済体制は近代文化を基盤とし、外来文化の融合が重要な要素となってきました。1945年当時、日本の総人口は約7000万人で、そのうち海外に住む日本人は約650万人、つまり当時の日本人口の10分の1が海外にいました。中国・ハルビン市の方正県を例にとると、方正県の人口26万人のうち、5万人以上（20%）が日本に来ており、嫁いできた女性や残留孤児が多くを占めます。これら海外在住の日本人が帰国する際、その滞在国の文化も持ち帰りました。帰国者の影響は政治、経済、生活など多岐にわたります。

- (1) 日本の飲食文化を例にとると、「含多湯（ガタタン）」は、東北地方に滞在していた日本人が持ち帰った日常料理「麵疙瘩」です。また、東北地方で人気のある餃子も、中国帰国者が日本に持ち込んだもので、日本で餃子の人気が高い県は浜松県と宇都宮県で、いずれも中国帰国者が多い地域です。さらに、世界中で愛されるインスタントラーメンは、日台系人の安藤百福によって発明されました。
- (2) 日本人孤児団の訪中活動は、日中友好を促進する架け橋となっており、交流活動は歴史を思い出し、歴史記憶を伝承し、戦争を反省する機会となっています。
- (3) 長野県阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」（2014年開館）は、日本の民間団体によって建設・運営されています。1936年、日本は「満州農業移民百万人移住計画」を策定し、「開拓団」を組織して中国東北部で経済侵略を行いました。当時、約3.3万人の農民が東北に移住し、最終的に帰国できたのは1.7万人以下でした。「開拓団」の悲惨な歴史は、深く研究する価値があります。加害者として、日本は歴史に正面から向き合う必要があり、被害者として、中国は広範な共識を求め、平和の力を結集する必要があります。

3. 結語

日本では単一民族という神話がよく語られますが、歴史的に見ても、日本社会は多民族化・多文化化の方向に進んでおり、これは誰も否定できない現実です。過去の歴史問題に関する認識の対立は、常に問題の根源となり、政治の領域だけでなく、人々の相互認識にも影響を与えています。このような現状において、人々のつながりを再発見し、構築することが何よりも重要です。本講座では、講演者はこれらのつながりを再発見し構築する過程において、アジア共同体の構築には可能性があると考えています。

日文翻譯 葉淑華

2024.11.10